

グローバル・リート・セレクション
追加型投信／内外／不動産投信

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率1.65%（税抜1.50%）の信託報酬控除後です。

※分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

基準価額	6,756 円
純資産総額	21.6 億円

※基準価額は1万口当たりです。

騰落率	1ヵ月前	3ヵ月前	6ヵ月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	▲ 0.24%	3.50%	8.97%	1.54%	32.22%	167.38%
参考指数	0.34%	3.53%	10.36%	4.87%	35.16%	217.14%
為替レート（米ドル/円）	0.85%	5.75%	8.03%	1.36%	15.16%	51.15%
為替レート（豪ドル/円）	2.69%	5.44%	10.60%	5.79%	11.46%	29.64%
為替レート（ユーロ/円）	1.97%	5.55%	9.89%	13.05%	26.49%	35.72%

※騰落率は、1ヵ月前、3ヵ月前、6ヵ月前、1年前、3年前の各月の15日（休業日の場合は翌営業日）および設定日との比較です。

※分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。

※参考指数は、FTSE EPRA Nareit Developed REIT Total Return Index USD〔円換算後〕です。

※参考指数および為替の騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

※参考指数は、当該日前営業日の現地終値に為替レート（対顧客電信売買相場の当日（東京）の仲値）を乗じて算出しております。

※なお、設定來の参考指数の騰落率は、2006年3月31日（参考指数の算出開始日）との比較です。

※為替レートは対顧客電信売買相場の当日（東京）の仲値を比較して算出しております。

ポートフォリオ構成比率	
国内不動産投信	5.7%
外国不動産投信	91.2%
短期金融商品その他	3.1%
マザーファンド組入比率	
北米リート・マザーF	74.6%
オーストラリア／アジアリート・マザーF	16.1%
ヨーロッパリート・マザーF	8.4%
組入銘柄数	82銘柄

※「マザーF」はマザーファンドの略です。

※マザーファンドを通じた実質比率です（マザーファンドの組入比率を除く）。

※小数点第2位を四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。

※銘柄数は、新株等がある場合、別銘柄として記載しております。

設定来分配金合計	9,680 円
----------	---------

過去1年間の分配実績

(1万口当たり・税引前)

決算日	分配金	決算日	分配金	決算日	分配金
2025/01/15	10円	2025/05/15	10円	2025/09/16	10円
2025/02/17	10円	2025/06/16	10円	2025/10/15	10円
2025/03/17	10円	2025/07/15	10円	2025/11/17	10円
2025/04/15	10円	2025/08/15	10円	2025/12/15	10円

※毎月15日（休業日に該当する場合は翌営業日）に決算を行い、主として配当等収益等から収益分配を行います。なお、6月と12月の決算期は、売買益（評価益を含みます。）が存在するときは、配当等収益に売買益（評価益を含みます。）等を加えた額を分配対象収益として収益分配を行います。

※運用状況等によっては分配金額が変わることや、或いは分配金が支払われない場合があります。

グローバル・リート・セレクション
追加型投信／内外／不動産投信

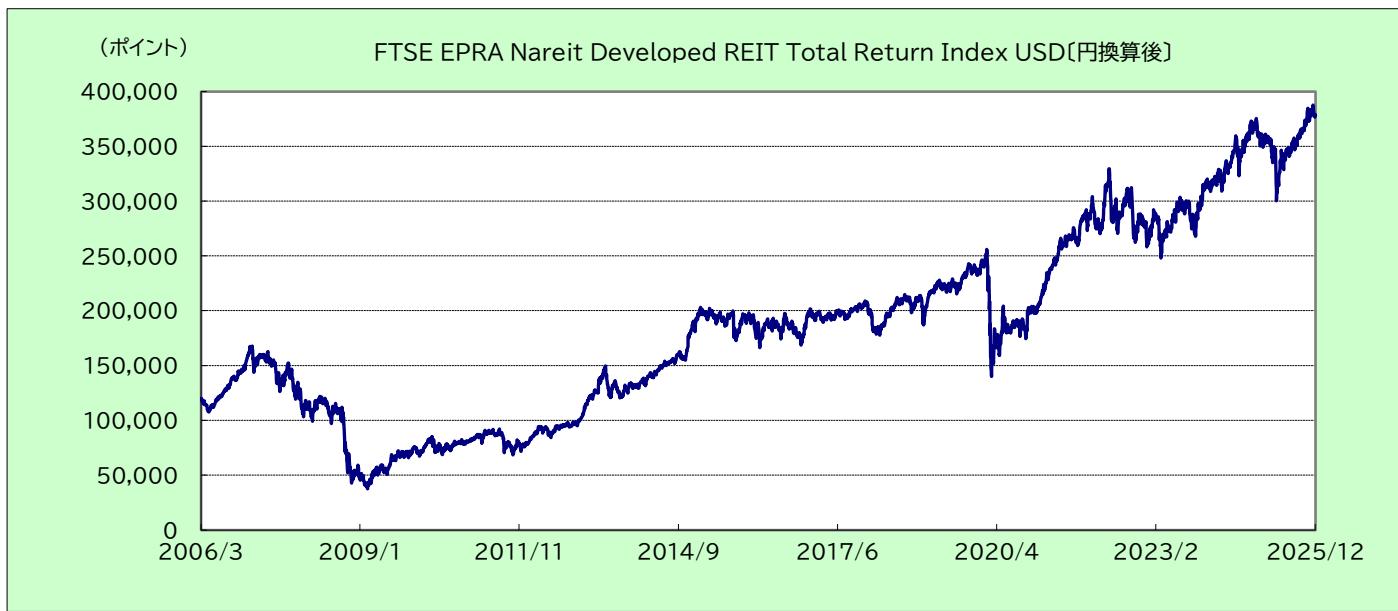
基準価額の要因分析

決算期	決算日	基準価額	前期比	分配金	リート要因	為替要因	信託報酬等
第238期	2024/12/16	6,779 円	▲181 円	▲10 円	▲26 円	▲135 円	▲10 円
第239期	2025/1/15	6,581 円	▲198 円	▲10 円	▲314 円	135 円	▲9 円
第240期	2025/2/17	6,614 円	33 円	▲10 円	268 円	▲215 円	▲10 円
第241期	2025/3/17	6,308 円	▲306 円	▲10 円	▲174 円	▲112 円	▲10 円
第242期	2025/4/15	5,876 円	▲432 円	▲10 円	▲230 円	▲184 円	▲8 円
第243期	2025/5/15	6,200 円	324 円	▲10 円	237 円	105 円	▲8 円
第244期	2025/6/16	6,257 円	57 円	▲10 円	133 円	▲57 円	▲9 円
第245期	2025/7/15	6,379 円	122 円	▲10 円	8 円	132 円	▲8 円
第246期	2025/8/15	6,319 円	▲60 円	▲10 円	▲42 円	1 円	▲9 円
第247期	2025/9/16	6,557 円	238 円	▲10 円	248 円	9 円	▲9 円
第248期	2025/10/15	6,604 円	47 円	▲10 円	▲74 円	140 円	▲9 円
第249期	2025/11/17	6,782 円	178 円	▲10 円	75 円	123 円	▲10 円
第250期	2025/12/15	6,756 円	▲26 円	▲10 円	▲77 円	70 円	▲9 円

(基準価額の要因分析とは)

- 各計算期間における基準価額の変動要因を分配金、リート(不動産投信)、為替、信託報酬等に分けて1万口当たりで表示します。
- 上記の数値は、日々の資料を基に簡便法により試算した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
- リート要因とは、リート(不動産投信)の配当等収益及び売買損益(評価損益を含む。)等が基準価額に与えた影響額です。

投資環境



※FTSE EPRA Nareit Developed REIT Total Return Index USD[円換算後]は、参考指数です。

※参考指数は、当該日前営業日の現地終値に為替レート(対顧客電信売買相場の当日(東京)の仲値)を乗じて算出しております。

(出所:BloombergデータよりSBI岡三アセットマネジメント作成)

グローバル・リート・セレクション
追加型投信／内外／不動産投信

保有リートの構成

<組入上位10銘柄>

銘柄名	投資比率	国・地域
プロロジス	6.7%	アメリカ
ウェルタワー	6.1%	アメリカ
エクイニクス	5.0%	アメリカ
サイモン・プロパティーグループ	4.6%	アメリカ
ベンタス	3.6%	アメリカ
エクイティ・レジデンシャル	2.9%	アメリカ
エクストラ・スペース・ストレージ	2.7%	アメリカ
デジタル・リアルティー・トラスト	2.5%	アメリカ
アグリー・リアルティ	2.5%	アメリカ
ミッド・アメリカ・アパートメント・コミュニティーズ	2.2%	アメリカ

※銘柄は、新株等がある場合、別銘柄として記載しております。

※投資比率は、当ファンドの純資産総額に占める各銘柄の実質組入比率です。

※外国銘柄の日本語表記は、QuickFactSet、Bloombergを参照しております。

マザーファンド名	組入比率(%)
北米リート・マザーファンド	73.1
アメリカ	71.1
カナダ	2.0
オーストラリア/アジアリート・マザーファンド	15.6
オーストラリア	5.7
シンガポール	3.2
香港	1.0
ニュージーランド	-
日本	5.7
ヨーロッパリート・マザーファンド	8.1
オランダ	-
ベルギー	0.9
ドイツ	-
フランス	2.6
イタリア	-
イギリス	3.7
アイルランド	-
ガーナジー	0.3
スペイン	0.6
合計	96.9

※組入比率は、当ファンドの純資産総額に占める国・地域別のリートの実質組入比率です。

※四捨五入しておりますので、合計数が合わないことがあります。

ポートフォリオ配当利回り

3.6%

※配当利回りは、北米リート・マザーファンド、オーストラリア/アジアリート・マザーファンド、ヨーロッパリート・マザーファンドの各マザーファンドのポートフォリオ配当利回りを当ファンドの各マザーファンド組入比率で加重平均したものです。各マザーファンドのポートフォリオ配当利回りは、各マザーファンドで保有している個別リートの予想配当利回りを各マザーファンドの純資産に対する比率で加重平均した年率換算利回りです(前月末時点、課税前)。

※配当利回りは市場動向等によって変動します。したがって、ファンドの運用利回りを示唆するものではなく、将来の分配金を保証するものではありません。

グローバル・リート・セレクション

追加型投信／内外／不動産投信

ファンドマネージャーのコメント(1)

※各リート・マザーファンドの外貨建資産(リート等)等に係る運用委託先のファンドマネージャーの前月末時点でのコメントなどを参考のうえ作成しています。

<投資環境>

(前月の投資環境)…米国の追加利下げ観測や英国の財政不安後退などを受けて、上昇しました。

【米国】

11月の米国リート市場は、上旬は、米連邦議会上院がつなぎ予算を可決し、連邦政府機関の一部閉鎖解除が視野に入ったことから、経済正常化への期待が高まり、上昇しました。中旬には、人工知能(AI)分野への過剰投資に対する懸念が強まり、株式市場が下落した流れを受けて、米国リート市場もデータセンター系リートを中心に反落しました。しかし下旬に入ると、米連邦準備制度理事会(FRB)高官による12月会合での利下げに前向きな発言が相次いだことから、追加利下げ観測が強まり、市場は反発しました。

【オーストラリア／アジア】

アジアリート市場は、シンガポールでは、月初は、9月の小売売上高が前年比で市場予想を下回ったことなどが嫌気され、下落しました。その後は、賃料上昇期待などを背景にオフィスビルに投資するリートを中心に反発しました。中旬は、米国でAI分野への過剰投資懸念が強まることを受けてデータセンターに投資するリートが下落したほか、シンガポールの主要輸出品である半導体関連への悪影響が意識され、反落しました。下旬に入ると、米国で利下げ観測が強まることで投資家心理が改善し、再び上昇しました。香港では、月前半は、中国政府による政策期待や、中国の10月の消費者物価指数(CPI)が前年比で上昇に転じ、過度な景気への懸念が後退したことから、上昇しました。月後半に入ると、商業施設に投資する大手リートの2025年4-9月期決算が市場予想を下回る内容となつたことなどが嫌気され、反落しました。

Jリート市場は、上旬は、10月の日銀の金融政策決定会合で植田総裁が早期の追加利上げに慎重な姿勢を示したとの見方が影響して、上昇しました。オフィス仲介大手企業が公表した統計でもオフィスの空室率の低下や賃料の増額が継続していることが確認され、東証REIT指数は節目の2000ポイントを突破しました。中旬は、補正予算の規模が当初の見通しから増額されるとの見方から国債利回りが上昇し、Jリート市場はやや弱含みました。下旬は、利回りの上昇が一服したことから、再び上昇しました。

【ヨーロッパ】

欧州リート市場は、上旬は、イングランド銀行(英中央銀行、BOE)が金融政策委員会(MPC)で政策金利を据え置いた一方、12月会合で利下げを行う可能性を示したことが材料視され、上昇しました。しかしその後は、英国の予算案発表を控えて財政不安が意識され、長期金利が上昇したことに加え、オフィスビルや商業施設などに投資する大手英國リートの2025年上期決算が市場予想を下回ったことが重石となり、反落しました。下旬には、米国で利下げ観測が強まつたほか、英国政府が予算案で増税方針を示したことで財政不安が和らぎ、長期金利が低下に転じました。これを受け、リートの利払い負担上昇への懸念が後退し、反発しました。

(今後の見通し)…追加利下げや堅調な業績への期待を背景に、底堅い展開になると予想

※以下のコメントは、運用委託先のファンドマネージャーのコメントに当社のファンドマネージャーの見通しを加えて作成しています。

米国リート市場は、底堅い展開が予想されます。労働市場の軟化傾向を背景に、追加利下げ観測が長期金利の低下圧力となり、利払い負担軽減への期待を高めると考えられます。また、コスト低下により分配金利回りが上昇すれば、投資魅力の向上にもつながります。加えて、商業用不動産市場では、比較的良好な需給環境が続くと見ており、堅調な業績への期待も相場を下支えする要因になると考えられます。セクター別では、産業施設は新規供給の減少とネット通販の拡大による物流需要の強さから、コロナ禍で生じた供給過剰が解消に向かうと見込まれます。商業施設は、新規供給の鈍化や既存スペースの再活用が進み、需給改善とともに賃料は緩やかな上昇が期待されます。住宅は、一部で供給過剰感が残るもの、住宅取得費用の上昇が賃貸需要を押し上げ、稼働率の下支え要因となると考えられます。

アジアリート市場は、シンガポールでは、底堅い展開が予想されます。同国の貿易産業省は、世界経済の回復やAI関連の半導体・サーバーの需要拡大などを背景に、2025年の経済成長率見通しを上方修正しました。こうした環境のもと、シンガポールリートの主力セクターである産業施設では、半導体、エンジニアリング、テクノロジー関連企業を中心に工場や物流施設への需要が旺盛であり、今年稼働した施設の8割以上で入居企業が既に決定しています。さらに、2026年にかけて新規供給は限定的と見られ、良好な需給環境を背景に賃料上昇など業績改善への期待が相場を下支えする要因になると考えられます。香港では、当面は上値の重い展開が続くと予想されます。低調な決算を発表した商業施設を主力とする大手リートは、テナントの収益悪化を受けて契約賃料が想定を下回りました。同リートは香港リート市場の時価総額の8割超を占めており、分配金の減配懸念が相場全体の重石となっています。一方で、10月の小売売上高は6ヵ月連続でプラスとなり、観光客数の回復を受けて小売テナントの収益環境は改善しつつあります。このため、今後は賃料の下げ止まりに対する期待も高まると言えます。さらに、中国の追加景気対策への期待や、金融政策の連動性が高い米国の利下げ観測による利払い負担の軽減期待も下支えとなり、相場は徐々に底堅さを取り戻すと予想されます。

Jリート市場は、堅調な展開が続くと予想します。オフィスの空室率が低下基調にあることや賃料の増額が継続していることなど、Jリートを取り巻くファンダメンタルズは引き続き良好であり、下値は限定的と見ています。ただし、純資産と比較した割安感は残っているものの、国債利回りと比較した割安感が乏しい点には留意すべきと考えます。その点からも、高市政権の「責任ある積極財政」による利回りへの影響が引き続き注目されやすいでしょう。また、高市首相の「存立危機事態」発言をきっかけとした日中関係悪化の影響についても一定の注意が必要と考えます。

欧州リート市場は、底堅い展開が予想されます。足元では景気の弱さが懸念されるものの、欧州各国における財政拡張に伴う投資拡大が景気や商業用不動産需要を下支えすると見込まれるほか、建設費用の上昇による新規供給の抑制など、リートにとって良好な事業環境が整いつつあると見ており、業績への期待が相場の支援要因になると考えられます。金融政策面では、欧州中央銀行(ECB)は政策金利の据え置き、BOEでは利下げが見込まれており、金利は比較的安定した推移が予想されます。このような環境は商業用不動産への資金流入を促し、資産価格の下支え要因になると考えられます。さらに、欧州リートの価格は保有不動産の実勢価値を下回る水準にあることから、投資会社などによる合併・買収(M&A)の動きが続く可能性があり、業界再編への期待も支援材料になると見られます。

グローバル・リート・セレクション 追加型投信／内外／不動産投信

ファンドマネージャーのコメント(2)

※各リート・マザーファンドの外貨建資産(リート等)等に係る運用委託先のファンドマネージャーの前月末時点でのコメントなどを参考のうえ作成しています。

<運用経過>

【グローバル・リート・セレクション】

- ・各マザーファンドへの資産配分目標につきましては、変更ありません。
- ・市場動向やファンドの資金の変動等を勘案し、実質組入比率は概ね90%以上を維持しました。

【北米リート・マザーファンド】

- ①資産配分目標…75.5%

②組入銘柄の変更・入れ替え等…

当期においては、VICIプロパティーズ(米国)やスマートセンターズ・リアル・エステート・インベストメント・トラスト(カナダ)などを全口売却した一方、エッセンシャル・プロパティーズ・リアルティ・トラスト(米国)やチヨイス・プロパティーズREIT(カナダ)などを新規に買い付けました。

【オーストラリア/アジアリート・マザーファンド】

- ①資産配分目標…16.0%

②組入銘柄の変更・入れ替え等…

当期においては、ビシニティ(オーストラリア)やインヴィンシブル投資法人(日本)などを新規に買い付けました。

【ヨーロッパリート・マザーファンド】

- ①資産配分目標…8.5%

②組入銘柄の変更・入れ替え等…

当期においては、概ね既存のポートフォリオを維持しました。

<今後の運用方針>

- ・各マザーファンドの資金の流入出に合わせリートの売買を行い、収益性の高い資産を保有しバランスシートが相対的に健全なリートへ投資する予定です。
- ・各マザーファンドへの資金配分につきましては、直近の「地域配分戦略会議」の結果を踏まえて、上記の投資比率を維持する予定です。
- ・実質組入比率は投資環境や資金動向等を勘案して概ね90%以上とする方針です。

※ 今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

グローバル・リート・セレクション
追加型投信／内外／不動産投信

ファンド情報

設 定 日	2005年1月27日
償 還 日	原則として無期限
決 算 日	毎月15日(休業日の場合は翌営業日)

ファンドの特色(1)

- 1** 世界各国の取引所および取引所に準ずる市場で取引(上場等の前の新規募集または売出し、もしくは上場等の後の追加募集または売出しにかかるものを含みます。)されている不動産投資信託証券に分散投資し、高水準の配当収入の獲得を目指すとともに中長期的な値上がり益を追求します。
 - 実際の運用は北米リート・マザーファンド、オーストラリア／アジアリート・マザーファンド、ヨーロッパリート・マザーファンド(以下、「マザーファンド」といいます。)を通じて行います。
- 2** リーフ アメリカ エル エル シーに、各マザーファンドにおける不動産投資信託証券および外貨建資産の運用の指図(外国為替予約取引の指図を除きます。)に関する権限を委託します。
- 3** 高水準の配当収入の獲得を目指すために、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。
- 4** 不動産投資信託証券の実質組入比率は、原則として高位に保つことを基本とします。
- 5** 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの特色(2)

● 分配方針

毎月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

分配金の支払いイメージ



※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益には、マザーファンドの利子・配当等収益のうち、信託財産に帰属すべき利子・配当等収益を含むものとします。
- 収益分配は、主として配当等収益等から行います。
ただし、6月と12月の決算時の分配方針は、それぞれの決算日に売買益(評価益を含みます。)が存在するときは、配当等収益に売買益(評価益を含みます。)等を加えた額を分配対象収益として分配を行います。
- 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

※分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

収益分配金に関する留意事項

- ファンドの分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われます。分配金が支払われると、その金額相当分、ファンドの純資産が減少するため、基準価額は下がります。

※分配金の有無や金額は確定したものではありません。

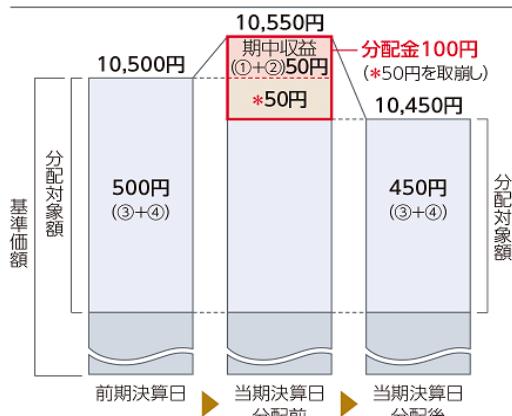
ファンドで分配金が支払われるイメージ



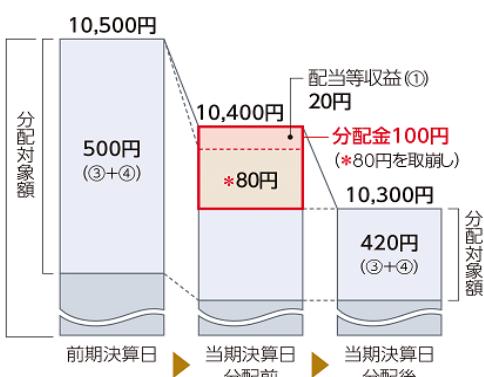
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)の中から支払われる場合と、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります。計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合のイメージ

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



分配対象額 ①経費控除後の配当等収益 ②経費控除後の評価益を含む売買益 ③分配準備積立金 ④収益調整金

分配準備積立金

期中収益(①+②)のうち、決算時に分配に充てずファンド内部に留保した収益を積み立てたもので、次期以降の分配金に充てることができます。

収益調整金

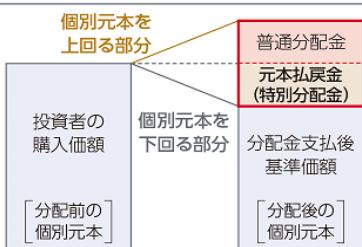
追加購入により既存投資者の分配対象額が希薄化しないようにするために設けられたものです。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

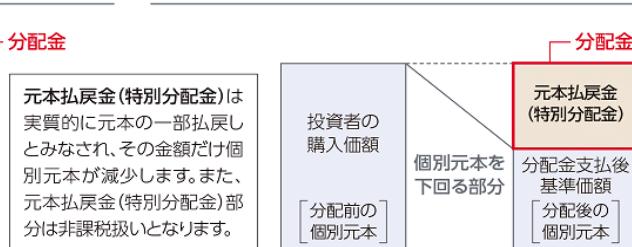
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金

個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)

個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等<ファンドの費用・税金>」をご参照ください。

投資リスク(1)

■ 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、世界各国の不動産投資信託証券等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

● 主な変動要因

不動産投資信託証券のリスク

● 価格変動リスク

不動産投資信託証券の価格は、保有不動産等の価値や賃料収入の増減等に加え、市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

● 分配金(配当金)減少リスク

利益の大部分を投資家に分配(配当)するなどの一定の要件を満たすことにより、法人課税が減免される等の税制上の優遇措置を受けているため、利益と分配金(配当金)との連動性が高く、利益が減少した場合には、分配金(配当金)も同様に減少する可能性があります。

為替変動リスク

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対する円高により、外貨建資産の円換算額は減少し、円安により、外貨建資産の円換算額は増加します。

カントリーリスク

投資対象国・地域等における外貨不足等の経済的要因、政府の資産凍結等の政治的理由、社会情勢の混乱等の影響を受けることがあります。

● その他の変動要因

不動産投資信託証券のその他のリスク(信用リスク、業績悪化リスク、自然災害・環境問題等のリスク、法律改正・税制の変更等によるリスク、上場廃止リスク、流動性リスク)

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

投資リスク(2)

■ その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ありません。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日は、購入・換金申込の受付を行いません。 ・翌日および翌々日(土曜日および日曜日を除きます。)が委託会社の休業日である日 ・ニューヨーク証券取引所またはニューヨークの銀行の休業日 ・オーストラリア証券取引所の休業日 ・ロンドン証券取引所の休業日
購入・換金 申込受付の 中止及び取消し	取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	原則として無期限(2005年1月27日設定)
繰上償還	受益権口数が30億口を下回ることとなった場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となることがあります。
決算日	毎月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年12回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	2,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 https://www.sbiokasan-am.co.jp
運用報告書	3月、9月の決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

グローバル・リート・セレクション
追加型投信／内外／不動産投信

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入金額(購入価額×購入口数)に、販売会社が独自に定める購入時手数料率を乗じて得た額 購入時手数料率の上限は、3.3%(税抜3.0%)です。 購入時手数料率は変更となる場合があります。 詳しくは販売会社にご確認下さい。	ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われます。
信託財産留保額	1口につき、換金申込受付日の翌営業日の基準価額×0.30%	

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年率1.65%(税抜1.50%)		
	委託会社	年率0.90%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。
	販売会社	年率0.50%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
	受託会社	年率0.10%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
[外部委託先報酬] マザーファンドの運用の外部委託先に支払う運用委託報酬は、委託会社が受取る信託報酬から支払います。			
その他費用・手数料	監査費用:純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)		
	有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。		

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。その他費用・手数料(監査費用を除きます。)はその都度、信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。なお、上場不動産投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場不動産投資信託の費用は表示しておりません。

委託会社および関係法人の概況

委 託 会 社 SBI岡三アセットマネジメント株式会社 (ファンドの運用の指図を行います。)

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号

加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

受 託 会 社 三井住友信託銀行株式会社 (ファンドの財産の保管及び管理を行います。)

マザーファンドの
委託先運用会社 リーフ アメリカ エル エル シー

(「北米リート・マザーファンド」において、委託会社との運用委託契約に基づき、外貨建資産の運用指図(外国為替予約取引の指図を除きます。)を行います。)

リーフ アメリカ エル エル シー

(再委託先運用会社:DWSインベストメンツ・オーストラリア・リミテッド)

(「オーストラリア／アジアリート・マザーファンド」において、委託会社との運用委託契約に基づき、外貨建資産および不動産投資信託証券の運用指図(外国為替予約取引の指図を除きます。)を行います。委託を受けた運用指図に関する権限のうち、投資判断に関し再委託先運用会社に再委託します。)

リーフ アメリカ エル エル シー

(再委託先運用会社:DWSオルタナティブズ・グローバル・リミテッド)

(「ヨーロッパリート・マザーファンド」において、委託会社との運用委託契約に基づき、外貨建資産の運用指図(外国為替予約取引の指図を除きます。)を行います。委託を受けた運用指図に関する権限のうち、投資判断に関し再委託先運用会社に再委託します。)

グローバル・リート・セレクション
追加型投信／内外／不動産投信

販売会社について

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
アーク証券株式会社	関東財務局長(金商)第1号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
岩井コスモ証券株式会社	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡安証券株式会社	近畿財務局長(金商)第8号	○			
香川証券株式会社	四国財務局長(金商)第3号	○			
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
莊内証券株式会社	東北財務局長(金商)第1号	○			
ニュース証券株式会社	関東財務局長(金商)第138号	○	○		
ばんせい証券株式会社	関東財務局長(金商)第148号	○			
二浪証券株式会社	四国財務局長(金商)第6号	○			
北洋証券株式会社	北海道財務局長(金商)第1号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
松井証券株式会社	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
むさし証券株式会社	関東財務局長(金商)第105号	○			○
明和證券株式会社	関東財務局長(金商)第185号	○			
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
JIA証券株式会社	関東財務局長(金商)第2444号	○			○
野畠証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
(登録金融機関)					
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社宮崎銀行	九州財務局長(登金)第5号	○			

(注) 販売会社によっては、現在、新規のお申込みを受け付けていない場合があります。

グローバル・リート・セレクション 追加型投信／内外／不動産投信

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

ご注意

- ・本資料はSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いします。投資信託説明書(交付目論見書)の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- ・本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- ・本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- ・本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。